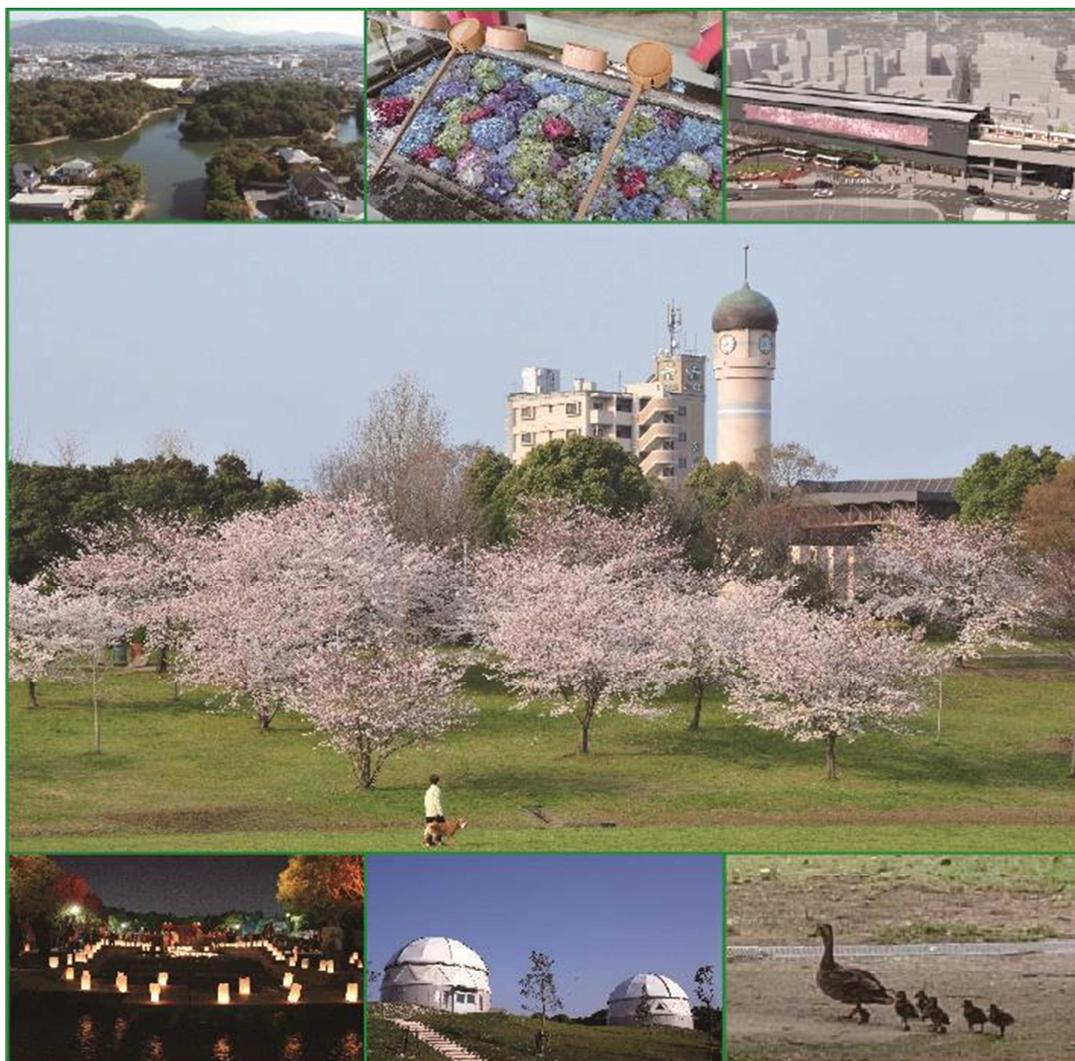


第18期・第19期

かすが市民懇話会 活動報告書

さあ、次のステージへ

～みんなが主役のまちづくり～



2023.07.19

かすが市民懇話会 活動報告書 目次

1. かすが市民懇話会の概要.....	01
(1) 設置目的.....	01
(2) 基本的な活動内容.....	01
(3) 18期・19期かすが市民懇話会の概要.....	02
2. 提案内容と市の見解.....	05
3. 18期会員からのメッセージ.....	14
4. 各回の会議録.....	20
5. かすが市民懇話会 18期・19期会員名簿.....	51
6. かすが市民懇話会要綱.....	54

1. かすが市民懇話会の概要

(1) 設置目的

かすが市民懇話会要綱第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

(2) 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市に住む一人一人がそれぞれの住みよさを見つけることができ、誰もが住みよいと感じるまちを目指すために、私たち市民の声を市に直接届ける場にしたい」という思いから、生活に身近な話題で、年齢や性別や経験に関係がなく、誰でも意見が言いやすいテーマを設定し、かすが市民懇話会要綱第2条第1項に基づき次の活動を行いました。

ア 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言

イ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱第2条第2項において、私たちの提案に対する市の対応は次のとおり規定されています。

市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。

(3) 18期・19期かすが市民懇話会の概要

年間テーマ

「さあ、次のステージへ ～みんなが主役のまちづくり～」

各回のテーマ、活動内容など

- 第1回** 日程：令和4年8月29日（月）
場所：春日市役所2階 大会議室
内容：概要説明、役員を選任
テーマ：「これからの協働のまちづくり」
情報提供者：井上澄和市長



- 第2回** 日程：令和4年10月11日（火）
場所：春日市役所2階 大会議室
内容：講話、グループ討論
テーマ：日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」
情報提供者：教育部 文化財課
整備活用担当 森井千賀子主査



第3回 日程：令和4年12月21日（水）

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「自治会活動の活性化、課題を知る

～魅力ある自治会になるために～」

情報提供者：地域生活部 地域づくり課

協働推進・文化振興担当 洗 祥吾主任



第4回 日程：令和5年2月8日（水）

場所：春日市役所4階 404～406 会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「コミュニティ・スクールのこれから～校区再編～」

情報提供者：教育部 地域教育課

こども共育担当 宮本敬一統括係長



第5回 日程：令和5年3月16日（木）

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「地方創生～公共施設の再配置、交通課題～」

情報提供者：経営企画部 経営企画課 企画担当 有吉基樹統括係長

都市整備部 道路管理課 街路担当 森川亮太主任

都市整備部 都市計画課 計画担当 矢野 守課長補佐



第6回 日程：令和5年6月13日（火）

場所：春日市役所2階 大会議室

内容：講話、グループ討論

テーマ：「進化する情報化社会に備える」

情報提供者：経営企画部 デジタル政策課

デジタル政策担当 安部耕平統括係長



2. 提案内容との市の見解

私たちは、「さあ、次のステージへ ～みんなが主役のまちづくり～」を年間テーマとして、市と市民が協働したまちづくりを推進するために、共に行動する取り組みについて、話し合いを行いました。

この懇話会の話し合いでは、「私たちができること」「市（行政）ができること」の2つの視点で方策の提案をさせていただきました。これらの提案の中でも、「これから私たちが積極的に行政や地域に関わっていくための方策」を提案内容としてまとめました。この提案内容に対する市の見解をいただきましたので、掲載します。

各回のテーマと担当部署

- 1 **第2回** 日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」
文化財課 整備活用担当
- 2 **第3回** 自治会活動の活性化、課題を知る（魅力ある自治会になるために）
地域づくり課 協働推進担当
- 3 **第4回** コミュニティ・スクールのこれから（校区再編）
地域教育課 地域教育担当
- 4 **第5回** 地方創生～公共施設の再配置、交通課題～
経営企画課 企画担当、道路管理課 道路建設担当、
都市計画課 計画担当
- 5 **第6回** 進化する情報化社会に備える
デジタル政策課 デジタル政策担当

1 日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」

(R4.10.11 開催)

文化財課 整備活用担当

主な意見①

実際に現物を見ると、市民や子どもたちが関心を持つと思う。そのために、歴史散策バスの設定やウォークラリーなどのツアーコースを作ってはどうか。

市の見解

奴国の丘歴史資料館では毎年2回、「ブラ春日 歴史散歩」と題し、市内の遺跡を歩いて巡る事業を実施しています。

また、『西の都』日本遺産活性化協議会のウェブサイトでは、「日本遺産 古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」において、春日市内の周遊プランも紹介されています。

(<https://www.nishinomiyako.com/tour/kasuga.php>)

この他、歴史資料館で無償配布している「春日市文化財ガイドマップ」で、市内の史跡等を歩いて巡るモデルコースを掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

主な意見②

「西の都」を学ぼうとしたときに、5市2町だけでなく鴻臚館のつながりから福岡市とも連携すると広く知られるのではないか。

市の見解

春日市は「西の都」の事務局である福岡県及び5市2町と連携を取りながら、事業を進めているところです。「西の都」では、このストーリーにおいて、筑紫館（鴻臚館）は外国使節を迎える施設として書かれています。

福岡市では、「鴻臚館」の整備や活用についての計画（「国史跡鴻臚館跡整備基本計画」平成31年3月策定）の中で、「広域観光への展開を視野に入れた活用」として、「大宰府史跡等の関連史跡や、豊かな歴史を市民・観光客が楽しむ「博多旧市街プロジェクト」等と集客で相乗効果を促すため、お互いの来訪者

がそれぞれの史跡や施設の情報を受け取れる仕組みをつくります。」とあり、事業の進展において両者の連携が望まれます。

主な意見③

市外から来た人でも分かるように、最寄駅からの経路案内や遺跡の場所に大きな看板の設置をしたり、作業の案内や解説が見れるように二次元バーコードの掲示をしてはどうか。

市の見解

看板は大きなものが目立ちますが、春日市では住環境における景観とのバランスも必要と考えます。

二次元バーコードは、多くの情報を伝えるために、これからの説明板には必要なものです。一方で、説明板はスマートフォンがなくても（使えなくても）伝えることが基本と考えます。説明板の新設、更新時には、場所ごとに適したものを選び掲示いたします。

2 自治会活動の活性化、課題を知る（魅力ある自治会になるために）

（R4.12.21 開催）

地域づくり課 協働推進担当（旧協働推進・文化振興担当）

主な意見①

シニア世代と子どもたちのコミュニケーションが図れる場や、他の地区の子どもも受け入れるような子育てサロンなど、各世代の交流の場を提供するのはどうか。

市の見解

各地区自治会では、七夕飾りやしめ縄づくり、餅つきやニュースポーツなどの行事を通して、「世代間交流」を実施しています。

また、中学校区別ふれあい事業や地区祭りなどを通して、さまざまな世代が楽しみ、交流できる場を提供していただいています。

主な意見②

各自治会で決定することが多いので、最低限のルールとして統一した自治会の規程（予算関係や個人情報の取り扱いなど）があるといいと思う。

市の見解

現在、自治会は任意の団体として活動していただいております、各地区の実情や特色に合わせて自治会規約などの作成および自治会運営をしていただいているところです。

本市では、平成 21 年度に自治会制度改革を実施しており、当時自治会で参考にさせていただいたため、モデル規約を作成して配付した経緯があります。

また、個人情報の取り扱いなど、各自治会に共通の課題につきましては、自治会連合会で研修などを実施し、その中で学び合いながら、各地区の自治会運営に生かしています。

主な意見③

公民館のホームページや LINE などでのいろいろなお知らせができるよう、人材育成のため講習会を開いたり、自治会の I T 推進のために若い世代の人材発掘などの支援ができないか。

市の見解

令和 4 年度に市主催で、自治会向けの研修事業として、「スマートフォン体験講座」と「自治会活動におけるデジタル活用」を実施し、LINE やホームページについて講習会を実施しました。

また、ICT の活用を推進するに当たって、情報の受け手となる市民がスマートフォンなどの機器を使うことができるようになることも重要であり、デジタル政策課では、市民向けの教室を実施しています。

3 コミュニティ・スクールのこれから（校区再編）

（R5.2.8 開催）

地域教育課 地域教育担当（旧こども共育担当）

主な意見①
子どもに関わる活動に参加できるように、家庭に通学する子どもがいなくても地域住民への周知が行き渡るような情報提供や広報活動を行う。
市の見解
コミュニティ・スクールに関する次のような情報提供および広報活動を行い、地域住民の皆様への周知を図ってまいります。 市報への記事掲載 市ウェブサイト、学校ウェブサイト、学校だよりなどによる継続的な情報発信 自治会と連携した情報発信の依頼（自治会だよりなどへの記事や写真の掲載、学校だよりの回覧板への添付など） リーフレットなど広報媒体の作成 関連研修会や講座などの実施 関連研修会や講座などにおける広報チラシの配付 マスコミへのプレスリリースの充実

主な意見②
達成感を強調しすぎると自分には無理だと思える人がいるかもしれない。機会や時間があれば参加したいという人に向けて、気軽に参加できるようにハードルを下げ、緩やかな参加ができるようにしてはどうか。
市の見解
従来から、学校・家庭・地域の三者が連携して子どもを共に育む「共育」に、地域住民の皆様が緩やかに参加できることを目指して取り組みを進めており、その実現に向けて引き続き具体的な方法を研究してまいります。

4 地方創生（公共施設の再配置、交通課題） （R5.3.16 開催）

都市計画課 計画担当

主な意見①
<p>春日新50年プランのプランBにあるように、「市の都心」西鉄春日原駅周辺で市内外からいろいろな人が集えるように、ホテルや商業施設などを企業誘致したり、コミュニティスペースで定期的なイベントを開催して魅力あるまちにする。</p>
市の見解
<p>現在、西鉄春日原駅周辺において「地区計画」という都市計画の制度を活用したまちなみの誘導を検討しております。</p> <p>具体的には、建物の建て替え時に、低層階には商業施設やコミュニティスペースなどを設けることや、壁面後退させたり一定規模以上のまとまった敷地で建築したりすることなどを条件として、容積率など、建物の高さに係る制限を緩和するような仕組みの導入を検討しているところです。</p> <p>これにより商業施設の誘導や、回遊性の向上、賑わいの創出などに繋げていきたいと考えております。</p> <p>イベントの開催についても、道路用地等の公共用地活用の推進や、官民が一体となった賑わい創出のための仕組みづくりなどにより、持続可能なあり方を模索しているところです。</p> <p>ホテルについては、制度上、既に立地可能な状況ではあるものの立地が進んでいないことから、そのニーズ次第では誘致が適切かどうかを見極める必要があるのではないかと考えます。</p>

道路管理課 道路建設担当（旧街路担当）

主な意見②
<p>市内の各所で発生する渋滞を緩和するため、用地確保だけでなく、ロング右折レーンや1.5車線の道路の検討をしてはどうか。</p>

市の見解

市内各所で発生する交通渋滞は、主要な道路の整備が進展していないことが主な要因となっています。ご指摘のとおり、主要な道路の整備は、整備用地の取得が必要で、その財源確保が大きなハードルとなっているところです。

一般的に道路車線は、主要な道路の新設や拡幅を前提に、車両の将来交通量を予測し決定しています。したがって、市内の主要な道路が未整備の状態です。「ロング右折レーンや1.5車線的道路の検討」について検討しても、その効果は低く、交差点渋滞は容易に解決できないものとなっています。また、いずれの案も、既存車線の延長や拡幅を行うため、結果として現道の拡幅が必要となります。

今回のご提案から、現在の渋滞状況も鑑みて、今後も引き続き、主要な道路の新設や拡幅、併せて交差点形状の改良が早期に整備できるよう努力してまいります。また、県道についても、引き続き福岡県に早期整備の要望を行ってまいります。

都市計画課 計画担当

主な意見③

「やよい」の利用を増やすために、近隣の市との連携や路線の新設・増便を検討したり、「やよい」で史跡巡りなどを企画してはどうか。

市の見解

コミュニティバス「やよい」の利用者数の増加や更なる利便性の向上を目指し、現在、路線の新設について検討を進めています。

また、定期的に近隣市と協議や勉強会を行い、広域連携について検討を行っています。

なお、史跡巡りにつきましては、年中無休で運行しているコミュニティバスの運行に影響が生じる恐れがあり、またコミュニティバス事業の主たる目的が交通空白地帯の解消や高齢者及び障がい者の社会参加の支援等であるため、現時点では考えておりません。

5 進化する情報化社会に備える

(R5.6.13 開催)

デジタル政策課 デジタル政策担当

主な意見①	
	春日市の公式 LINE は完成度が高く、使いやすいため、これを維持・拡大させる。
市の見解	
	春日市 LINE 公式アカウントには、現在、さまざまな機能を実装しています。これらの機能の利用状況を確認しながら、より一層使いやすいものとなるように改善してまいります。
主な意見②	
	市中央部の複合施設のハード面だけでなく、市民活動のマッチング機能や地域経済の活性化（地域通貨、ボランティアポイントなど）などソフト面の充実にデジタルを活用できないか。
市の見解	
	市の DX 推進を図るため、「春日市 DX 推進にかかる全体方針」を定めています。御提案の内容は、基本方針に掲げる取り組み事項の「地域社会のデジタル化」の分野に該当するものにとらえています。 既存の制度のデジタル化のみならず、地域の課題を解決するために、市民と行政との協働のまちづくりの視点で、今後も継続して研究してまいります。
主な意見③	
	市民には、苦手意識だったり、犯罪や情報漏洩などの不安なこともあるが、デジタルに慣れ、学び合うことが必要だと思う。スマホ教室や相談会、勉強会を拡大してはどうか。
市の見解	
	「春日市 DX 推進にかかる全体方針」において、市が DX を推進していく上で

の基本的な視点の1つに、「市民サービスの視点」を掲げています。これは、全ての市民がデジタルの恩恵を享受できるように努めるとともに、デジタルを十分に利用できない人に対しても、市民サービスの低下を招かないようにするものです。

現在、市では、デジタルによる格差（デジタルデバインド）を解消するために、スマホ教室やスマホ何でも相談会を実施しています。

これらの事業について周知、拡大に努めるとともに、10人以上の受講者が集まればスマホ教室の講師を派遣するスマホ教室コーディネート事業にも力を入れて取り組んでまいります。



3. 18期会員からのメッセージ

(氏名五十音順)

岩本 晃

まさにコロナ禍の真ただ中であった頃、かすが市民懇話会のことを知り、ぜひ参加してみたいと応募しました。18期スタート当初はまだまだ閉塞感の漂う世の中で、人が集まること自体にも賛否が分かれる難しい時期でしたが、行政の方々の細やかなお心配りのお陰で、無事に2年の任期を終えることができました。

協働のまちづくりという理念の下、行政の方々が抱くこれからの展望や現状の問題点を伺い、あるいはレクチャーを受けた後にグループに分かれて市民としての素朴な思いや疑問、枠にとらわれない自由なアイデアを懇話会メンバーと共有し、練って、行政へと伝え、それに対しての御意見を市長からその場で戴く・・・率直に申せば、とても面白く、さまざまな方との御縁や刺激を享受できる楽しい会でした。他の自治体ではなかなか実現が難しいのではないかと、思うこのような取り組みを行っている春日市に関わられて本当に有り難く、更に素敵な会となるよう、もう一期活動できればと願っております。

植田 和樹

1年目はコロナの影響で回数も少なく十分な話し合いもできませんでした。

2年目は、定期開催で、会員間のコミュニケーションも良好でした。

私自身は福岡市南区に居住して、春日市の放課後学童保育（春日北小学校）の補助をしていました。春日市のコンパクトシティの特徴を生かすべきと思います。福岡市は、150万人超の巨大都市で、南区も27万人の人口です。行政と住民の距離感を良くすることも、パワーと時間が必要です。春日市の利点を生かし、行政と住民で、良好な関係を今後も築いてほしいと思います。

子ども・現役世代・シルバー世代が地域で共有できるイベントや場所作りを希望します。

太田 隆

井上市長をはじめ、市の職員の皆様、そして意見交換を行った会員の皆様に、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。懇話会では、「自分たちができること」「市（行政）ができること」を考える中、多くの学びと気づきを引き出し、成長する貴重な機会となりました。

印象に残る懇話テーマは、「これからの50年に向けた、暮らしやすく魅力あるまちづくり」です。春日新50年プランの骨子をいち早く知ることができた喜びは忘れられません。ハード面の計画である新50年プランは、「協働のまちづくり」を更に促進させるものと期待しています。

より良い計画にするために市民目線の要望をお伝えすると、誰もが行き交う中央部の市民活動の拠点整備において、日本史上最初の国「奴国の王都」を象徴するシンボル（例えば、丘陵地と一体化した複合施設や空中公園、広場、ブロンズ像など）をつくり、シビックプライド（都市に対する市民の誇り）と市民の郷土愛を醸成させていただきたい。特に地域共生社会の実現に向けて、市民一丸となって多くの課題に立ち向かう強固な精神的支柱・“心のランドマーク”を構築してほしい。同時に市民活動の司令塔を設け、例えば、デジタルボランティアポイントやデジタル地域通貨を整備しマッチング機能を強化することで、中央部だけでなく市内全域の市民活動や経済活動の活性化を希望します。まさに古代「奴国の王都」の繁栄が蘇り、市全体のあらゆる分野で“テーマパーク”のように楽しく参画できる「協働のまちづくり」が実現することを夢見しています。

記念すべき市制100周年（2072年）までの途上には、57年日本列島の国の中ではじめて世界史に名を刻んだ倭奴国王金印授与2000周年（2057年）という世界に誇る輝かしい年を迎えます。その時までには、世界遺産登録を実現、「全国をリードする幸せ実感都市かすが」の景色が展望できることを願い、感謝と懇話会卒業のメッセージとさせていただきます。

古賀 久章

かすが市民懇話会に参加し、市長や職員の方々からの説明で春日市の協働のまちづくりの考えや取り組みを深く知ることができました。それと共に懇話会参加者をはじめとした市民の皆様の活動によって春日市が支えられていることを実感しました。

私は10年近く春日市に住んでいますが、一日の大半を春日市で過ごす家族に比べて春日市を知る機会が少なかったので、貴重な経験でした。

懇話会では、毎回さまざまなテーマについて、多様な視点での意見が出ていました。長年住んでいる方だけでなく、転入された市民、一時期のみ転勤などで暮らす方々などさまざまな人がいて、流動性がありつつ、コミュニティが維持されているところが春日市の強みだと思います。

これからも市政の情報に関心を持ち、可能な範囲で興味ある活動には参加してみようと考えて関わっていきたいと思います。

白石 吉行

まずは2年間、大変お世話になりました。

元々この会に応募したのは、長年住んでいる春日市の事をもっと知りたいという動機からでした。この点は市役所の皆さんのプレゼンなどを通じて十分に理解できたと思います。改めて、お礼申し上げます。

これからは向けて、提案させていただきたい事があります。言いつ放し、聞き放しを回避する為に、毎回出た意見の中から「行政がやる事」・「自分たちがやる事」一つずつを取り上げて実際やってみて（検討してみても）結果を次回報告するというサイクルを回してみたらいかがでしょうか。また市報などでこれらの内容を広く市民の皆さんに開示したらいかがでしょうか。そうすれば懇話会という限られた空間から春日市全体に共有され、市民参加のまちづくりにつながるのではと期待します。

春日市は本当に住みやすい良い街だと思います。これからもいい街であり続けることを願っております。

土持 静代

令和4年度は春日市制50周年、令和5年度は春日市の新たな50年のスタートということで、春日新50年プランが計画されています。私はその中で第18期会員として、4年間懇話会に参加してきました。

コロナ感染拡大防止期間中は中止になることもありました。会員の方々は毎年アンケートによってテーマが決められるのですが、市民の方々が知りたいことや学びたいことは、大体同じであることを感じました。会員の方々は、熱心に意見交換される姿勢が4年間を通して変わることはありませんでした。

懇話会で学んだことは、自治会の仕事に非常に役立ちました。そのため、これからも自治会の仕事を行う中で、学んだことを活用していきたいと思います。

市の職員や担当者の方々には、度々細かい資料やご指導をいただき感謝しています。また市長さんも毎回出席していただき、感謝申し上げます。

最後に、春日市を担う子供たちへの願いがありました。学校で春日新50年プランや弥生時代の勉強などを一緒に学び、市民が一体となり喜びあえるような環境があるといいですね。さらに、過程の見学なども含めて行事として取り入れることで、市民としての責任感や自覚を育むことができるかもしれません。世界遺産への希望も子どもたちに託すことができるでしょう。

また、自治会でのお願いとして、自治会で最低限守らなければならない規定や予算の統一に検討を加えて欲しいという願いがありました。その際は、より洗練された自治会運営ができるよう、支援していきたいと思います。そして、IT時代に向けて春日市がより良い希望のある市に成長していくことを期待しています。

渡邊 善治

私が春日市を定住の地に選んで早30年となりますが、やはりこの街を選んで間違いはなかったと思っています。何と云っても、住環境と都市機能とのほどよいバランスが魅力です。かつ、街としてのコンパクトな規模感は、行政との

距離が近く、この懇話会のような仕組みが可能であると考えています。懇話会では、コロナ禍の影響で何度か機会を失ったものの、春日市という地域や行政についてさまざまな角度から学ばせていただき、大変ありがたく思いました。これからもできることがあれば、微力ながら貢献したいと考えております。

春日市が今のような快適な街に発展したのは、もちろん長年の積み重ね、ご努力があったことは論を待たないところですが、多分に幸運にも恵まれていたのではないかと考えています。それは、良くも悪くも、発展著しい福岡市の存在があったからだと思うからです。逆に言えば「福岡市がこけると春日市もこける」という関係にあり、決して春日市が単独で栄えるというわけではないものと認識しております。これからずっと将来に渡って福岡市との連携は欠かせないと思うし、また同じような立ち位置にある旧筑紫郡各市との協調も必要でしょう。春日市に留まらぬ広域的な問題意識は常に持ち続けるべきと考えています。

といいますのも、春日市は人口移動が激しく、決して市にずっと留まっている住民ばかりではないからです。彼らも一市民であることには変わりはありませんが、では彼らに行政に対していちいちもの申すインセンティブがあるかという点、必ずしもそうではないと思っています。だいたいにおいて「市民の声」というのは、地元アイデンティティの強い、従来から市域に住んでいる人や、せいぜい我々のようにここに定住しようと考えている人のことで、数年たてば他地域に移ってしまう人の意見というのはなかなか届きにくい。それを補完するという意味でも、近隣の自治体の動向をも念頭に置いた視野の広い行政運営が必要になってくると思っております。

一般に、春日市も含めた福岡市都市圏に対する住民の評価や満足度は高い方だと思うので、これらの自治体が互いに切磋琢磨し、足りない部分を補っていくような関係で共存することができれば、福岡都市圏の魅力はますます向上し、結果的にそれが春日市の発展にもつながると考えています。春日市に住まなくても大野城市に住んでくれりゃいいじゃないかという度量の広さ、おおらかさがあれば（あると思いますが）よいのでしょうか。余計なお世話かもわかりませ

んが、私は、春日市が小規模な自治体ゆえ、もしかすると偏狭な行政運営に陥りがちではないかという懸念を持っている者です。

話が大きくなりすぎました。懇話会の運営についていくつか提案します。

1. 懇話会は、最初に当日のテーマに沿った職員からの情報提供があつて、それをもとに4つのグループ別の討論を行い、「私たち（市民）ができること」「市（行政）ができること」を発表する、という形で進行するのが定石になっているようです。これまでの経験から、この形がもっとも合理的な方法と考えると思われませんが、個人的には、せっかく職員の方から直接プレゼンテーションを受けているわけですから、職員の方との意見交換をもっとしたいと思っていました。情報提供が終わっていきなりグループ討議に入るのではなく、せめて説明に対する質疑応答の時間があれば、懇話会全体の情報共有が進んで議論にも深みが増し、グループ討議にもスムーズに入ることができるように思います。

2. できれば懇話会の会員で議会を傍聴する機会があればいいですね。私も個人的に何度か傍聴させていただきましたが、懇話会の議論で役立つ情報収集ができます。もちろん強制は慎むべきですが、会員に傍聴を促したり、あるいは会の中で現在の議会の状況報告などがあれば、懇話会の中身がより充実していくと思います。

3. 運営の負荷ばかりがかかるとなると提案ばかりでしたが、いみじくも最終回のテーマがDX推進であったように、まさにその負荷軽減のために、懇話会もできるところからDXを推進したらどうでしょうか。もちろん苦手な方（私もそのひとり（笑））への配慮は欠かさずに。たとえば、開催通知の伝達、資料の電子化、オンライン討議などですが、これらを実現することによって、就業者や若年世代の懇話会への参加を促すことにも寄与するでしょう。

以上、好き勝手なことを書かせていただきましたが、懇話会で諸課題が活発に討議され、それが行政のより良い施策執行に結びつき、春日市がますます発展することを祈念いたします。

4. 各回の会議録

第1回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日時	令和4年8月29日 午後7時から午後8時30分まで
会場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 22名（欠席者4名）

第18期	渡邊善治、白石吉行、植田和樹、岳 義弘、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、澄 理嘉、三谷久美子、出井省三、大石浩一、田代文子、 洲崎ゆかり、田中伸幸、畑 敏治、福田忠三、吉田龍樹、村元浩二、 村上聖子、山本幸子、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、 広報広聴担当職員5名

議事

1 開会
2 市長あいさつ
市長から、かすが市民懇話会会員へ挨拶
3 かすが市民懇話会 概要説明
（事務局）第17期・第18期活動報告書1ページに沿って概要を説明
4 かすが市民懇話会新規会員の依頼書交付
市長より、新規会員に依頼書を交付
5 職員紹介
（事務局）秘書広報課長から職員を紹介及び会員の自己紹介
6 市長講話
テーマ：「これからの協働のまちづくり」 <ul style="list-style-type: none">・超高齢社会へ突入（日本の人口ピラミッドの変化）・市民と共につくるまち（協働のまちづくりのベース）・高齢者が安心して暮らせるまち（介護サービス基盤の整備、地域の見守り）

体制の充実)

- ・子どもを生き育てやすい環境づくり
- ・新型コロナウイルスワクチン接種事業
- ・地域連携会議（ワクチン未接種者への対応、地域力の向上）
- ・第6次春日市総合計画
- ・新しい50年の都市づくり（春日新50年プランがスタート）
- ・かすが市民懇話会とは

7 かすが市民懇話会 役員選出

(事務局)

かすが市民懇話会要綱第4条の規定に基づき、役員（会長及び副会長）は互選で決定している。例年であれば、懇話会前会長が進行を行うが、6月で退任されているため、事務局で進行を行う。

(異議なし)

立候補、推薦特になし。事務局から推薦し、会員の賛成多数により承認。

会 長：岩本 晃（第18期会員）※1期2年目

副会長：土持 静代（第18期会員）※前年度副会長、2期4年目

洲崎 ゆかり（第19期会員）※前年度副会長、2期3年目

坂井 一富（第19期会員）※2期3年目（当日欠席だが、本人了承済み）

以下、新役員あいさつ。

(新会長：岩本 晃)

昨年度から懇話会で活動してきたが、今回、19期17名の新しいメンバーが加わり、新たな気持ちでスタートしたい。また、市長には毎回出席いただき、まちづくりについて自由に意見交換を行う。皆さんと協力しながら1年間楽しく活動を行っていきたい。

(副会長：土持 静代)

一人一人に何ができるのか、自分ができることを自治会で進んでやっていくことが大事と感じている。

(副会長：洲崎 ゆかり)

春日市がもっと住みやすく子育て世代の方も増えるよう、皆さんと活発な意見を出し合って、より良い春日市になっていけたらいいと思っている。

8 活動方針協議

(新会長：岩本 晃)

例年通り、会員全員からアンケートを提出してもらい、役員へ一任することで決定。意見の多かったものなどを各回のテーマとするよう話し合い、スローガンとともに役員会で協議する。

9 閉会

事務連絡の後、閉会。

第2回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和4年10月11日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 22名（欠席者4名）

第18期	渡邊善治、古賀久章、白石吉行、植田和樹、太田 隆、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、澄 理嘉、三谷久美子、出井省三、田代文子、洲崎ゆかり、田中伸幸、畑 敏治、福田忠三、吉田龍樹、村上聖子、山本幸子、坂井一富、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員4名、文化財課長、文化財課職員4名

議事

1 開会
2 依頼書交付（新規会員1人）
市長から、前回依頼書を渡せなかった新規会員に交付
3 会長あいさつ、年間テーマ等説明
岩本会長からあいさつ及び令和4年度の活動方針（年間スローガン及び懇話テーマ）について報告
4 市長あいさつ
市長から、かすが市民懇話会会員へあいさつ
5 市からの情報提供
<p>テーマ：日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」 （市からの説明：文化財課整備活用担当 森井主査）</p> <p>1 日本遺産「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」とは （1）日本遺産：文化庁が、地域の歴史的の魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定。点在する遺産を「面」として</p>

活用・発信。パッケージ化した文化財群を一体的にPRする。

(2)西の都を構成する文化財は筑紫の地の随所に30件ある。

2 春日市の日本遺産にはどんなものがある？

(1)特別史跡水城跡（大土居・天神山）

※大土居水城跡の発掘調査の動画視聴を行った。

(2)牛頸須恵器窯跡（ウトグチ瓦窯跡）

(3)官道

※「日本遺産古代日本の『西の都』春日市-東アジアに繋がる交流のみち」の動画視聴を行った。

3 文化財を活用する取り組み

史跡巡り、体験教室、展示会、講演会、奴国の丘フェスタ（版築体験）、オンライン見学などを実施。

6 市長講話

グループ懇話・発表（※網掛けは発表者）

1班 太田、三浦、福井、山本

①私たちができることは何か

- ・子どもたちが関心を持つために、現地に現物を見に行く機会をつくる
- ・今日学ぶことを一人でも多くの人に伝えていく
- ・夏休みの宿題の課題に活用する

②市（行政）ができることは何か

- ・歴史散策バスの設定

2班 坂井、澄、岩本、福田、古賀、田代

①私たちができることは何か

- ・11月の文化祭で出張展示のようなものができるといい⇒市民向けPR
- ・作られている動画を活用する（春日高校のナレーションが素晴らしかった）
- ・日本遺産が春日市にあることを知らなかったの、見に行く
⇒家族や知人に語る、子どもたちにも
- ・文化財（遺跡など）に行ってみる⇒SNSで発信
- ・団体としての活動に講師としてきていただく

・今の世界情勢を歴史から学ぶ

②市（行政）ができることは何か

- ・文化財を散歩コースなどで気軽に行ける場所としてPRをする
- ・特別史跡に指定してもらうよう交渉をする
- ・保存を考えると世界文化遺産登録も検討する
- ・遠足コースにする
- ・子どもたちにはオンラインだけではなく触れて欲しい
- ・ツアーやサイクリングコースがあるといい
- ・小・中学校で今以上に歴史に触れる機会を設ける
- ・YouTube、インスタグラムの活用（インスタグラムには写真だけでなく動画も）
- ・スマホをかざすと二次元バーコードで解説が見れるようにする

3班 洲崎、白石、松尾、吉田、三谷

①私たちができることは何か

- ・文化財課などで主催されるツアーに参加する
- ・口コミで広報する
- ・奴国の丘歴史資料館を訪れ学ぶ
- ・夏休みの宿題などで親子でスタンプラリー、歴史の施設の紹介など（子どもたちの郷土愛を育む）
- ・中学校などの出前授業で学ぶ

②市（行政）ができることは何か

- ・大きな看板の設置、作業の案内、最寄り駅からの経路案内の設置
- ・公民館やウォークラリーなど、市民が集まる時ややよいバスの中でプロモーションビデオを流す
- ・春日のものと分かるキャッチコピーを作る
- ・ガイドボランティアによるツアー予約方法を簡単にする
- ・市役所のさまざまな課で行っているウォークラリーの歴史ポイントをまとめる

4班 土持、田中、出井、渡邊、村上、植田

①私たちができることは何か

- ・市が取り組んでいることを知る
- ・世界遺産を目指すプロセスなど、行政の計画について知る

- ・ツアーや勉強会を行う

②市（行政）ができることは何か

- ・サポーター制度や学校教育の取り組み、自治会の取り組みで春日市にある歴史のテーマを取り入れる
- ・ツアーなどで、歴史的な経緯をストーリー付けをして効果的に組む
- ・「西の都」を学ぶに当たって、5市2町だけでなく鴻臚館のつながりから福岡市とも連携する
- ・図書館などのPRを積極的に行うため、施設の連携を考慮する

7 市長所感

熱心なご協議、ありがとうございました。

ご意見の多くには、素晴らしい歴史遺産があることが市民に知られていないということでした。須玖岡本遺跡を知らずして考古学を語るなかれと言われるほど大事な場所です。西の都とは時代が700年近くずれているので、歴史の流れに沿って説明すると子どもたちにも分かりやすいのではないかという意見も中にはありました。

日本で初めて国として『魏志倭人伝』などの文献に出てくるのが、弥生時代の奴国と言われています。弥生時代を背景にした世界遺産は日本ではまだありません。奴国のその先について、対馬から佐賀の松浦、糸島、この歴史の流れを一つの回廊として調査しつつ解明していく。そのためにも、奴国の丘歴史資料館に福岡大学名誉教授の武末純一先生を名誉館長としてお招きし、まずは須玖岡本遺跡を特別史跡にしていこうという取り組みを行っています。

併せて今回の西の都の水城跡です。土手を作って水をためる濠を作り、博多の方から攻めてきた敵を止めるものです。水の城であることをイラストを使って断面図や上からの見た目や長さ、木樋（もくひ）の役割などを分かりやすく示してみると、もっと身近に感じられるのではないかと思います。

武末館長は、本物の文化財を子どもたちや市民の皆さんにも見てほしいと検討していると思います。今でも発掘すれば遺物は出てくると思います。

須玖岡本のロマンではありますが、課題はそこに人が住んでいるということです。武末館長がおっしゃるには、この地域には金印をもらった王様と奴国の王として発掘されている時代背景は50年違いだといわれており、金印の時代の王様も近くに眠っているの

ではないかというロマンが広がります。

歴史的に大きな役割を果たしていたと思いますので、本日のご意見を精査し市民の皆さんに知ってもらえるよう発信していきたいと思います。例えば、当時の生活様式を模倣的に作り、どのように生活していたかわかるようにしていくと子どもたちにも関心を持ってもらえるのではないかと思います。

これから次の50年に向けて、今あるものをもっと素晴らしいものにし、文化財も次の世代に向けて解明しながら残していく取り組みをしていきます。世界遺産や日本遺産に焦点を当てて専門家の力をお借りしながらやっていきます。

本日も、市民の皆さんに知っていただくためにどこからスタートするか、アイデアに繋がる貴重なご意見をいただいたと思っています。ありがとうございました。

8 閉会

事務連絡の後、閉会。

第3回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和4年12月21日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 17名（欠席者9名）

第18期	古賀久章、植田和樹、太田 隆、岳 義弘、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、大石浩一、田代文子、洲崎ゆかり、田中伸幸、畑 敏治、 吉田龍樹、村上聖子、坂井一富、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、 広報広聴担当職員3名、地域づくり課長、 地域づくり課協働推進・文化振興担当職員1名

議事

1 開会
2 会長あいさつ
岩本会長からあいさつ
3 市長あいさつ
市長から、かすが市民懇話会会員へあいさつ
4 市からの情報提供
<p>テーマ：自治会活動の活性化、課題を知る～魅力ある自治会になるために～ (市からの説明：地域づくり課協働推進・文化振興担当 洗主任) 「支え合い、助け合うまちづくり これからの地域コミュニティ」</p> <p>1 春日市ってこんなところ</p> <p>(1) 春日市の紹介</p> <p>(2) 進む高齢化率、止まらない人口減少、行政だけでやれることの限界</p> <p>(3) 春日市の目指すべきまちづくり、多様な主体間の協働が必須、自治会の存在が必要不可欠</p> <p>2 まちづくりの重要なパートナー“自治会”</p>

(1) 自治会ってなに？

(2) 春日市の自治会の歴史

- ・ 地区世話人制度の廃止
- ・ 地域組織の一元化
- ・ 補助金の一本化

(3) 対等なまちづくりのパートナーに

(4) 春日市の自治会の特徴、自治会の主な活動

3 広域的に取り組むまちづくり

(1) 自治会連合会、自治会連合会の組織

(2) みんなで創る地域コミュニティ

4 協働を支える市の制度

(1) 各種補助金等

(2) 公民館等の改修・維持補修

(3) わがまちサポーター育成事業

(4) 自治会や自治会活動の広報支援

5 目指すべきこれからの地域コミュニティ

協働のまちづくりを通して、みんなに愛される春日市を目指す

5 懇話

グループ懇話・発表（※網掛けは発表者）

1班 植田、畑、村上、坂井

① 私たちができることは何か

- ・ 第1歩を踏み出す

ボランティア、皆同じことはできないけれど少しずつでもいいからできることを増やせたらいい（自治会運営として人の参加、参画という一番重要な点）

- ・ 中学校PTAから学校に働きかけをして、シニアと子どもがコミュニケーションできる場、イベントに参加する（子どもが大きくなると関わりが薄くなる傾向がある）

- ・ 支え合い、ありがとうが喜びになる（リタイアすると今日の用事がなくなるの

で関係をつくる)

②市（行政）ができることは何か

- ・自治会活動が重要ということであれば、補助金など枠組みを増やす。必要であれば予算編成を見直す
- ・広報をもっと分かりやすくする。いろいろな情報が多すぎるので、メリハリのある表示をする

（ボランティア、サポーター等の表示など）

- ・今年のように50周年イベントが多いと、目立つし参加しようと思うので、告知をしっかりとる

2班 古賀、岩本、大石、洲崎

①私たちができることは何か

- ・人材不足、役員後継者不足を解消するため、おやじの会で中高年男性が自治会につながるきっかけを作る（飲みニケーションも大事。楽しんでもらう。男性は女性に比べてPTA等で自治会とつながるきっかけが少ないため）
- ・自治会は若い人の話を聞いて、柔軟に取り入れる
- ・子育てサロンなどでは他地区の子どもも受け入れる

②市（行政）ができることは何か

- ・公民館のホームページ、LINEで行事中止の連絡ができるよう人材育成のため講習会を行ったり、IT推進のためITに若い世代の人材発掘を行うなどの支援をする
- ・個人情報の取り扱い等の指導（ある程度市で定めた方がよい。自治会の自由度が高すぎて逆にやりづらいこともある）
- ・子ども会は全員加入の方が良い

3班 土持、三浦、田代、吉田、福井

①私たちができることは何か

- ・自治会で何をしているのかを知る、公開する
- ・自治会（公民館）に対する疑問や課題などを解決する
（班での意見）・未加入でも困らない
 - ・自治会のメリットは何があるのか
 - ・自治会活動に参加したい人は多い

- ・福祉の問題が重要ではないのか
- ・公民館に人が多く来るようにするのは難しい
- ・公民館の開館日の日時が知りたい
- ・経理の公開請求をしたい

②市（行政）ができることは何か

- ・各自治会で決定することが多い、事務員の賃金など
- ・各中学校区ごとの自治会連合会の活性化を推進する
- ・自治会で避難訓練をしいる自治会もある
- ・シニアクラブが活性化しているので、自治会が低下しているように見える
- ・総会では地元の利害関係があり発言しづらい
- ・自治会の中でも、友達関係を作りたいという人もいる

4班 太田、岳、田中、松尾

①私たちができることは何か

- ・（課題）現役世代の方など、仕事をしている人が多く、公民館・自治会に関われない
- ・自治会行事（盆踊りやゲートボールなど）に参加する
- ・日頃から、ご近所とあいさつをするよう心掛ける
- ・より魅力ある自治会になるために、隣組長、自治会役員、会長へ提案を行う（交流のチャンスになる）

②市（行政）ができることは何か

- ・小中学校の多目的ホールのエアコン整備をできるだけ早く実施する（公民館で、ふれあいサロンなど高齢者の行事を実施しているが手狭になっている）
- ・自治会をはじめとする協働のまちづくりを推進するすべての団体のデータベースとなるホームページを作成して、団体と市民のマッチングをする総合相談窓口を開設する
- ・お助けサービスの改善（電球交換などの軽作業）
- ・公民館活動を広めるために、子どもたちなどを通して広報を行う

6 市長所感

熱心なご協議、ありがとうございました。

1班からは、「一步を踏み出す」とありました。皆さんがそれぞれにできることやりたいことを地区の中でやっていくことが、非常に大事なことと思います。今年も餅つきがいろいろな地区で行われています。地域の行事に中学生が積極的に参加していますが、おやじの会の皆さんも多く参加されています。少し前では考えられなかったような状況に変わってきています。ご苦労もあると思いますが、地域の状況を見ながら、皆さんもまず地域の行事に参加をしていただいて、自分たちも何かやりたいことがあればいろんな形で話し合い、参加をしていくということが重要なことと思います。

2班からは、役員になり手不足ということでした。役員になり手がいないということは、ある意味では当たり前ではないかとも思っています。一つの地域社会をとりまとめていくということは、意見がそれぞれ違いますから、とても大変なことです。参加していただく皆さんが餅つきや運動会、夏祭りで「今日は楽しかった」と喜んでいただくために、どれだけ役員の方が苦労しておられるかと考えたときに、自分から進んでやろうという人はなかなかおられないと思います。しかし、多くの方々から尊敬を集めて「この方がやるならついて行こう」という方もたくさんおられます。異論もあるでしょうが、皆さんの違うご意見をとりまとめて実施していただくのは本当にありがたいことで、誰にでもできることではないと、そのようなことを協働のまちづくりを推進していく中で感じています。

3班からの、自治会に入るには困りごとがあったら入るとか、入ったからといってメリットも感じないしデメリットも感じないという考えも事実かもしれません。現在の超高齢社会というのは、みんなが長生きでき喜ばしいことです。しかし問題は少子化です。今年、新出生児は80万人を切ったそうです。支える側がだんだん減ってくる。これから先はボランティアやいろいろな方が協力しながら、自分たちのできることは自分たちでやっていこうという社会を作っていけないと、お互いに年をとって不安と心細さだけが残るとい社会には絶対にしてはいけないと思います。活力と豊かさをいかに維持していくか、足りない分は地域の一員としてみんなで支え合って地域社会を作っていくことが求められています。これをいかにして市民の皆さんに知ってもらうのか。地域の方のいろいろな経験、ノウハウ、知恵を出し合い、本気で自分たちでやっていこうとしたのが今の春日市の協働のまちづくりの原点です。この考えをさらに受け継いで広げていただくことが重要になってきます。行政は、地域の方に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、われわれ自身がしっかり気持ちを引き締めて取り組んでいかなければならない問題

でもあります。

こういったことに何かご意見や異論があればお聞かせいただいで、これからも一緒に、春日市のために地域のために取り組んで行きたいと思います。

4班からは、小中学校の多目的ホールにエアコンを設置するという話がありました。公民館が手狭になり、敬老会などの行事をするには参加者全員が入れないため、地域の学校を開放して使っていただくため、多目的ホールの大半に令和5年度中にエアコンを設置します。また地域によっては自治会の中に学校がないところがあるため、そのような場合には交通手段も検討しています。バスの借り上げなどの方法も含めて皆さんが安心して活用できるようにしていきたいと思っています。

貴重なご意見、ありがとうございました。参考にさせていただきたいと思います。

7 閉会

事務連絡の後、閉会。

第4回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和5年2月8日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 4階 404～406 会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 21名（欠席者5名）

第18期	渡邊善治、古賀久章、白石吉行、植田和樹、太田 隆、岳 義弘、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、澄 理嘉、三谷久美子、洲崎ゆかり、田中伸幸、畑 敏治、吉田龍樹、村元浩二、村上聖子、山本幸子、坂井一富、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員4名、地域教育課こども共育担当統括係長、地域教育課こども共育担当職員2名

議事

1 開会
2 市長あいさつ
市長から、かすが市民懇話会会員へあいさつ
3 市からの情報提供
<p>テーマ：コミュニティ・スクールのこれから～校区再編～ （市からの説明：地域教育課こども共育担当 宮本統括係長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ コミュニティ・スクール（以下、CSという。）って何？ ◆ 春日市のCS推進に関する基本的考え方 ◆ CSのはじまり・沿革・発展 ◆ 春日市の自治会とCS ◆ 学校運営協議会委員の構成、学校運営協議会の様子 ◆ 実働推進組織とは ◆ CSの取組（教育課程内外における協働活動）

- ◆ 教育課程内で実施する地域連携カリキュラムの4視点
- ◆ 双方向の関係構築による「共有」の基盤形成
- ◆ 教育課程外における協働活動の例
- ◆ 地域との関わりの意味（CSの成果）
- ◆ 子どもの育ち（生きる力の育成、市民性）
- ◆ 市制50周年記念事業動画「協働のまち かすが」
- ◆ 大人の活躍・育ち（生涯学習、当事者意識、市民性等）
- ◆ コロナ禍でもできることをできる方法で
- ◆ 平成30年度市民意識調査結果
- ◆ 懇話の方向性（子どもに関わる活動の例）

4 会長あいさつ

岩本会長から、あいさつ。

今回のテーマは、校区再編について話し合ってもらいたいと考えていましたが、CSがよく分からないとの声があり、皆さんにもっと知っていただくため、本日の説明を依頼したところです。CSは、子どもだけでなく大人も多くの人と関わり、新たなコミュニケーションを育むという意味でも取り上げてもらえたらと思います。

5 懇話

グループ懇話・発表（※網掛けは発表者）

1班 植田、岩本、澄、田中、山本、福井

①私たちができることは何か

- ・他の学校や地域の活動を知る（地域住民への報告が行き渡っていない）
- ・参加するきっかけがあればもっと男性やこれまで参加者していない人も参加できる（集まるきっかけが少ない）
- ・高齢化が進んでいるため、高齢者にとって活動を生きがいとするためにも、男性を含めて子どものために活動に参加するきっかけ作りが必要
- ・学校中心のコミュニティができあがるように関わっていくきっかけが必要
- ・鉛筆削りや火の扱い方を大人が教える場も大切
- ・子どもが育った後も参加できる行事をつくり、地域とのつながりが切れないようにする

②市（行政）ができることは何か

- ・見守り活動や指導を行う人たちに、参加のためのレクチャーをする
- ・地域で行う防災訓練や清掃活動などをもっと広げる
- ・車ではなく歩きや自転車で活動できるように交通体制を整える
- ・今でもすごいと思うが、国の先を行く異次元の子育てのまちづくり、その情報発信をする
- ・LINEの配信地区を個別に設定して配信する

2班 渡邊、岳、三谷、洲崎、畑

①私たちができることは何か

- ・人材バンクが必要
- ・地域にも子どもたちのことに興味がある人がたくさんいるので、名簿作りができるといい（アナログとデジタル）（情報の共有）
- ・自ら参加したい人を見つける
- ・各学校が配信する総合情報メールに地域の人が登録すると興味がある人の掘り起こしができる
- ・広げようとしたら、会社を引退したばかりの人にアプローチする（きっかけ作り、口コミ）
- ・私たちのように知っている人が、サポーター（応援団）になる

②市（行政）ができることは何か

- ・春日市のウェブサイトやLINE（基本メニュー）をもっと広く活用する（SNSを通じて）
- ・CSが全国の展開であれば、他市町の動きを情報提供する
- ・広報活動を大事にする
- ・市の窓口の各所にLINE登録用の二次元バーコードを置く
- ・子どもに関わりたい人の連絡先につながる問い合わせボタンを作る（ウェブやLINEなど）

3班 古賀、太田、三浦、吉田、松尾

①私たちができることは何か

- ・CSのことを意識して学ぶ
- ・地域の行事に参加する

- ・地域の行事に参加し、運営にも協力する
- ・子どもたちが地域の人に手紙を出す
- ・地域の回覧板で行事を案内する
- ・子どもたちが主体となってイベントを盛り上げるようにする

②市（行政）ができることは何か

- ・あまり周知がされていないので、市の方から徹底して周知をする
- ・行事の周知も紙ではなく、デジタルで周知をして10年、20年、30年先を見据えて継続するように改革していく（お得感があるといい。ポイントをためてコミュニティバス無料券、税の軽減やマイナポイントなど継続参加の仕掛け）
- ・今のCSを継続する

4班 白石、土持、村元、村上、坂井

①私たちができることは何か

- ・自治会に参加していても、保護者以外の住民は子どもがいないとCSとの関わり方がわからないので、自治会で子どもたちが行っていることを共有する
- ・ゆるやかなつながりが望ましい
- ・自治会と学校は共有し、協力し合っている（クリーン作戦は子どもは多いが親の参加が少ない）

②市（行政）ができることは何か

- ・広報が少ないので、自治会以外の行事や活動を知らせる
- ・達成感（頑張っている）を強調すると、自分は無理と思う人がいると思う。
- ・自治会の合意、協力のもと住民の裾野を広げる
- ・市単位で歴史資料館など専門的なものに特化し、興味を持ち参画できる取り組みを企画する（専門的なことは行政がやる）
- ・ため池で釣り、春日公園でバードウォッチングなど企画する
- ・機会、時間があれば参加したい人には、ゆるやかな参加を促す（ハードルを下げる）

6 市長所感

本日も、熱心なご協議、ありがとうございました。

今回は、正解のないテーマだったと思います。正解もなければ間違いもない。その中で、皆さんからいただいたご意見は貴重なものばかりです。

市民の皆さんと行政が対等の立場で協働のまちづくりを推進し、その一環として春日市のCSが始まりました。それぞれ自治会の中でいろいろな取り組みをされています。

そこには、それぞれに多様性があって皆さんがCSの活動に取り組まれています。中にいると分からないのですが、CSの影響からか、春日市は外部から見ると教育がいい、福祉がいい、安心して生活ができると見られているようです。

先日、春日北中校区の自治会役員研修会を見せていただいたのですが、中学校区ごとに役員研修をしている自治体は少ないと思います。防犯防災、コミュニティ、福祉、環境と4つの分野で日頃活動をしていることを、それぞれの自治会で発表し、意見交換をしてお互いに良いところを学んでいこうという取り組みを行っています。中には、「これでいいのだろうか、まだ足りていないのではないか」「後継者が育たない」という声もありました。しかし、後継者が途切れたことはないですし、皆さんで話し合ってふさわしい方を選んでいただいています。そのような春日市の良さを、活動されている皆さんに知ってもらうためには、役員の研修で先進地といわれているところを見ていただいたらどうかと思いました。本当にこれでいいのかという責任感が強すぎて、逆に内向きになってしまっていますが、視点を外に向けて他と比較してみることも必要かもしれません。それによって、春日市がこれだけ進んだことをしていると分かると思います。

国は、春日市の取り組みを参考にしていました。スタートしたときは地域社会の中で子どもたちを育てていくというのが本来のCSでしたが、春日市のような取り組みはなかなかできないので、国の考え方は、学校運営協議会と地域コーディネーターを設置したところがCSだというように少し変わってきたようです。しかし、これからの地域社会を考えたときに、これから全く変わっていきます。団塊の世代が後期高齢者になると、その世代の子どもが高齢者になり、一気に高齢者が増えます。問題はそれを支える側が減ってきていることです。これからは、行政だけでは地域の課題に対応できなくなります。そのためにも協働のまちづくりを通して、地域で子育てをしていくCSを皆さんに理解していただくことが必要になってくると思います。

他にも、二次元バーコードを活用した取り組みやLINEやSNSを通じての人材の発掘など、貴重なご意見もありました。これらをしっかりと受け止めて考えていきたいと思っています。本日もありがとうございました。

7 閉会

事務連絡の後、閉会。

第5回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和5年3月16日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 21名（欠席者5名）

第18期	渡邊善治、古賀久章、植田和樹、太田 隆、岳 義弘、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、澄 理嘉、出井省三、大石浩一、田代文子、洲崎ゆかり、田中伸幸、福田忠三、吉田龍樹、村元浩二、山本幸子、坂井一富、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員4名、経営企画課企画担当統括係長、都市計画課計画担当課長補佐、道路管理課街路担当職員1名

議事

1 開会
2 会長あいさつ
<p>岩本会長から、あいさつ。</p> <p>今年度の年間スローガンはアフターコロナを見据えて「さあ、次のステージへ～みんなが主役のまちづくり～」としましたが、まさに次のステージが始まろうとしています。小学校の卒業式が徐々にコロナ以前の形で行われます。マスク緩和や5類への引き下げなど明るい話題が広がる中で、忘れかけていた皆さんが主役のまちづくりという熱を取り戻しましょう。</p>
3 市長あいさつ
市長から、かすが市民懇話会会員へあいさつ
4 市からの情報提供
<p>テーマ：地方創生～公共施設の再配置、交通課題～</p> <p>1 春日新50年プラン 住みよさ実感都市かすが～つながる はぐくむ 支え合う～</p>

(市からの説明：経営企画課企画担当 有吉統括係長)

このプランは、市政の総合的計画「第6次春日市総合計画」と都市基盤整備計画「第2次春日市都市計画マスタープラン」に基づき、「市全体の重点プロジェクト」と「地域別の重点プロジェクト」を中心に、市政の課題や懸案を長期的・総合的視点から解決し、同マスタープランに描く春日の未来図の実現を目指します。「協働のまちづくり」のハード面の基盤整備を推進するため、次の3つの視点からプランの検討を進めます。

◆ プランA：市民活動拠点の整備

- ①市中央部の「市民活動交流拠点」の強化推進
- ②小・中学校の地域開放の推進
- ③スポーツ施設の整備・有効活用

◆ プランB：都市機能の向上推進

- ①市の都心「中心拠点」整備
- ②都市計画道路等の整備推進
- ③高さ規制の見直し

◆ プランC：歴史自然景観の整備

- ①ため池保全の見直し
- ②史跡を活かしたまちづくり
- ③水と緑の都市空間の形成

2 西鉄天神大牟田線連続立体交差事業及び西鉄春日原駅周辺整備事業について

(市からの説明：道路管理課街路担当 森川主任)

- ◆ 西鉄春日原駅周辺の現状、課題
- ◆ 西鉄天神大牟田線連続立体交差事業の進捗状況（福岡県）（線路を高架化する事業）
- ◆ 西鉄春日原駅周辺整備事業（春日市）（道路や駅前広場を整備する事業）
- ◆ 西鉄春日原駅周辺の高架下空間利用計画（春日市域の利用計画案）

3 春日市コミュニティバス「やよい」について

(市からの説明：都市計画課計画担当 矢野課長補佐)

- ◆ やよい運行方針
- ◆ やよいの特徴

- ◆ 新型車両の導入、利便性の向上、利用者のための各種見直し
- ◆ 利用者増に向けた方策の検討

5 懇話

グループ懇話・発表（※網掛けは発表者）

1班 岳、岩本、田代、福田、村元、松尾

①私たちができることは何か

- ・やよいを利用する（もっと利用しやすくなるといい）
- ・地元の状況をよく見て行政に伝わるように要望していく

②市（行政）ができることは何か

- ・道路渋滞の問題（宝町、大土居、光町、須玖）
（どうすれば渋滞が緩和するのか。資金（予算）を注ぎ込む。）
- ・用地を買うことばかりを考えない（ロング右折レーン、1.5車線化の検討）
- ・近隣の市（大野城市、那珂川市と連携）を合わせて考える（通勤、通学に使えるよう増便。路線の新設。）
- ・春日原駅にホテルを企業誘致（雇用の増加、税収の増加などが見込まれる）
- ・春日原駅（一帯）に横断通路を設置（自転車置場など）

2班 土持、三浦、洲崎、田中、吉田、山本

①私たちができることは何か

- ・やよいの利用の促進
- ・やよいを利用し、良い点や不便な点など声を上げ提案する

②市（行政）ができることは何か

- ・公共施設の前にやよいが止まるようにし、行き来しやすいようにする
- ・狭い道の路線を見直す
- ・春日原駅周辺の駅近で、全ての用事が済むように、飲食店などいろいろな人が集える場所にする（大橋駅をモデルに）
- ・地域共生社会の拠点がいいが、各地域でも土日など立ち寄れる拠点を作る

3班 渡邊、植田、太田、出井、坂井

①私たちができることは何か

- ・可能な範囲で、市政や自治会活動、市民活動に参加・参画する

(例：文化財の調査員や音楽活動など)

- ・年金生活者は市の活動に参画する（女性の参加は多いようなので、特に男性）
- ・まちづくりの要望や意見を提案する

②市（行政）ができることは何か

- ・公共施設の老朽化や計画など詳しく情報提供する
- ・やよいの路線を市役所、主要な駅、お店など乗り換えせずに直接行けるようにする（JR や西鉄の駅が市の端にあるため）
- ・高架下の変電所横の空き地スペース（西鉄所有だが）を有効に活用できるようにする
- ・文化財など近隣自治体と連携強化する（西の都や鴻臚館など）
- ・新 50 年プランのソフト面として、市全体をテーマパークのようにしたプランを作成する（市民の参画を活性化）

4 班 古賀、澄、大石、福井

①私たちができることは何か

- ・駅でのイベントに参加する
- ・コミュニティスペースに商工会の事業者が出店する

②市（行政）ができることは何か

- ・市民が集うコミュニティの場所をつくる（キッチンカーが入れるような広場、歩行者天国など月 1 回または週 1 回で高齢者向けや子ども向けなどいろいろなイベントを開催）
- ・やよいで史跡巡り、スタンプラリーを企画し乗客を増やす
- ・狭い道を回れる小型バスを導入
- ・増便や主要な店舗のバス停設置など検討する
- ・市外からの訪問者のため、春日原駅でふれあい文化センターへの案内をする

6 市長所感

本日も、熱心なご協議、ありがとうございました。

各班から懇話の結果を伺いました。まず、春日原駅についてです。春日原駅周辺は民間が開発するので、市は乱開発を防ぐために高さ規制などを見直します。不適格建築物の問題も解決しながら、転入者を増やしたいと思います。

駅前広場のイベント活用については、地元の声も聞きながら、通路や広場を整備しま

す。春日原駅周辺事業の最後になるので時間がかかりますが、新しい駅舎やスーパーも入って変わっていくと思います。ただし、西鉄が関わる部分のため、詳細はまだ分かりません。ご理解ください。

コミュニティバスについて、意見をいただきました。朝夕は渋滞で車が動かない状態で、しかも交通規制がかかっているため朝の7時から9時まで通れない道路が多くあります。生活道路で歩行者の安全を守るためですので、ここにバスを出してもバスが動きません。コミュニティバス導入の理由は、泉地区の方が市役所に行くのに公共交通機関が無いと言われたことです。困っている方々のためなので、100円で利用できます。年間の収入は2000万円ですが、支出は1億円以上必要です。今後も民間ではできないことを、公共事業としてやっていきます。

今、春日市だけではなく、2025年問題というのがあります。後期高齢者になる方が戦後の第1次ベビーブームの方々の、2年後の2025年から15年間で高齢者が一挙に増えます。しかし、それを支える子どもの数は減っています。つまり、税収が落ち込み、高齢化は確実に進むが、少子化は予測以上に進んでいます。令和4年の出生数の予測が80万人だったのに、それを下回っています。現実を考えると夢のような話ばかりはできません。次の50年に向けて福祉の拠点として、スポーツ、文化、図書館も含め、福祉活動もできる拠点を作りたいと思っています。コミュニティバスも春日原駅周辺から直接大谷や博多南駅まで行けるようにするとか、市民の皆さんに安心してこの地で生活していただくために、民間がやることと行政ができることと役割を考えながらやっていきます。

福祉の拠点が中央にあることとその大切さ、そして各地区で子育てや高齢者の集いが自立してできるようという話もありました。今でも、公民館でサロンやカフェなどを活発にされていますが、さまざまな支援の場として、公民館の開放と、小中学校の特別教室にエアコンを入れて、学校を地域に開放していただく取り組みをやっていきます。新たに作るのは困難ですが、既存の施設を開放して市民の皆さんの集いを促進することを目指します。

これからも皆さんの意見を拝聴し、納得してもらえるように努めます。

本日もありがとうございました。

7 閉会

事務連絡の後、閉会。

第6回（18期・19期）かすが市民懇話会 会議録

日 時	令和5年6月13日 午後7時から午後9時まで
会 場	春日市役所 2階 大会議室

出席者 かすが市民懇話会会員 18名（欠席者8名）

第18期	渡邊善治、古賀久章、白石吉行、植田和樹、太田 隆、岳 義弘、岩本 晃、土持静代
第19期	三浦淳二、田代文子、田中伸幸、畑 敏治、吉田龍樹、村元浩二、村上聖子、坂井一富、松尾佳代子、福井澄子
事務局等	春日市長、経営企画部長、秘書広報課長、秘書広報課長補佐、広報広聴担当職員4名、デジタル政策課デジタル政策担当統括係長

議事

1 開会

2 会長あいさつ

岩本会長から、あいさつ。

本日は、DX（デジタル・トランスフォーメーション）ということですが、以前はIT化と言っていました。DXを調べると、デジタルでトランスフォーム（変える）、つまりITの浸透により人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるということがもともとの意味だそうです。災害の時など情報化やDXが進むことで私たちの生活の安心につながるのではないかと思います。

反面、マイナンバーカードの不具合や詐欺メールに闇バイトなど、デジタルの機器に不安を覚えることも多い御時世です。スマホが使えないと取り残されるのかと不安を持つ方もいらっしゃると思います。

今日は春日市のDX事情をレクチャーしていただいた後に、いつものように、私たちができること、市（行政）ができることの2つの視点で考えていただきたいと思います。

本日は18・19期の皆様が集まる最後の会となります。充実した会となりますよう、今夜もどうぞよろしくお願い致します。

3 市長あいさつ

市長から、かすが市民懇話会会員へあいさつ

4 市からの情報提供

テーマ：進化する情報化社会に備える

(市からの説明：デジタル政策課デジタル政策担当 安部統括係長)

1 DXって最近よく聞くけれど何？

DX（デジタル・トランスフォーメーション）

「情報通信技術の浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させること」

スマホやインターネットを使って暮らしが便利になること

2 市がDXを進める目的は？

①市民サービスの向上

②業務を効率化し、職員の力を市民サービスの向上に充てる

3 春日市ではDXって進んでいるの？

①LINE公式アカウント（現在の登録者：約65,000人）

- ・市からの情報を分野ごとに受信（希望する情報のみ選択可能）
- ・道路、公園、河川の損傷を報告（手間がかからずに正確に報告可能）
- ・ごみの出し方を調べる
- ・新型コロナワクチン接種予約 他機能多数

市報かすがとLINEのそれぞれにある短所を補い合うように、市からのお知らせを展開する。

②手続きのオンライン化

- ・転出手続き
- ・母子健康手帳の交付予約
- ・児童手当関係手続き
- ・介護保険関係手続き など

③スマホ教室や何でも相談会

春日市役所やいきいきプラザで開催

スマホを持っていない人にも貸出機で対応可能

4 スマホが使えないと取り残されちゃうの？

「安心してください。そんなことはありません。」

春日市がDXを進める際の基本的な視点

- ①市民サービスの視点
- ②市民と行政との協働のまちづくりの視点
- ③行政経営の視点

5 懇話

グループ懇話・発表（※網掛けは発表者）

1班 渡邊、古賀、白石、村元、福井

①私たちができることは何か

- ・市民も極力デジタルベースで行政に情報を提供する
- ・デジタル化できるものはデジタル化する
- ・使い方を自分の周りで向上させる（詳しい人に聞く）
例）キーボード入力が難しい場合は音声入力を使用する
- ・防災に使う（行政への通報）
- ・個人情報に対する考え方を少し変え、マインドを開く

②市（行政）ができることは何か

- ・春日市のシステムは完成度が高く、使いやすいため、これを維持・拡大させる
- ・いきいきプラザでの教室など、良い取り組みなので、対象を拡大して広報に努める
- ・自治体を超えたワンストップサービスにつなげる
- ・地域で使えるポイント付与などを検討する（動機付けになる）
- ・懇話会の開催通知を紙からメール（LINE）に切り替える

2班 岩本、田中、村上、坂井

①私たちができることは何か

- （インターネットが苦手でも、LINEは使える人が多いという状況を踏まえての意見）
- ・使わないと分からなくなるので、出欠の取りまとめなど積極的に使う（グループLINEなど）

- ・危険な面もあることを知る（情報漏洩、詐欺など）
- ・市公式LINEで使ったことのない機能について知る

②市（行政）ができることは何か

- ・手続きはデジタル化で良いが、対面でのやり取りなど人との温かさ、優しさを大切にする。
- ・人のつながりがあった上でのDXがあるとより良い
- ・スマホ相談会をホールの隅の方でしていたが、もっと目立つような場所とする
- ・スマホ相談会を地域でも行う
- ・毎日使えるような情報発信があると活用につながる

3班 太田、岳、土持、三浦

①私たちができることは何か

- ・情報通信技術の活用方法を提案する
- ・お互いが学び合う
- ・デジタルに慣れる

②市（行政）ができることは何か

- ・行政の情報通信技術をあらゆる分野で活用する
- ・デジタルのボランティアポイントやデジタル地域通貨を検討する
- ・地域通貨を通して、まちづくりの参加や郷土愛や誇りなどの醸成にも活用する
- ・市中央部の複合施設のハード面だけでなく、市民活動のマッチング機能や地域経済の活性化などデジタルを活用したソフト面の充実
- ・市民がいろいろな計画に楽しく参画し、市全体がテーマパークのようにぎわい、奴国の王都春日の繁栄を改めて実現し持続可能に発展していくようにする

4班 植田、田代、畑、吉田、松尾

①私たちができることは何か

- ・LINEの登録をする
- ・苦手意識を持たずに慣れていく
- ・無料スマホ教室やキャッシュレス商品券のことなど、知っている情報があれば周囲に知らせる
- ・情報の共有と情報の選択をする
- ・自分自身が振り回されないようにする

- ・便利なところは利用するが、犯罪に巻き込まれないようにする
- ②市（行政）ができることは何か
- ・スマホやインターネットができない人へのサポートをする
 - ・犯罪に巻き込まれないように周知する（スマホ教室や勉強会など）
 - ・受け手のことを考えた情報発信をする
 - ・デジタル化の中で失われていく、対面で生まれるものも大切にする
 - ・過渡期の今、若者世代はデジタルに慣れているが、50代以上の慣れていない世代がもっと活用できるようにする

6 市長所感

本日も、熱心にご協議いただきありがとうございました。

それぞれの班のご意見は、概ね共通しているようです。デジタル化を進めていきながら便利なものをさらに活用し、キャッシュレス化などさまざまな分野でもっと便利に活用できるよう、実現してもらいたい。しかし、対面も大事にしていかなければいけないという考えです。

そういう中で、春日市公式LINEアカウントについて、大変分かりやすく使いやすいというお褒めの言葉をいただき、ありがとうございます。皆様からのこのような声を通して、活用の輪を広げていきたいと思えます。

デジタル化の進展によってさまざまな情報が錯綜さくそうしていくこともあると思えます。便利になればなるほど、新たな課題も出てきますので、私たち自身がその課題を自覚しながら活用していくことが基本だと思えます。

今日、皆様からいただいたご意見を参考にしながら、デジタル化にかかる政策について進めさせていただきたいと思えます。本日もありがとうございました。

7 感謝状贈呈式

（代表あいさつ：岩本会長）

第18期会員となった時に、コロナ禍ということもあり、思うように開催ができませんでした。2年目には会長をお任せいただき拙い挨拶でしたが、ありがとうございました。

個人的にですが、福岡市の子どもたちのための会議に参加した際に、会議は盛り上がりつつも行政にどうやってこの声を届けるかと困っているのを見て、春日市では出前トークも懇話会もあり、行政の人たちに直接自分たちの意見を言える場があるのになと思

ました。これからもずっとこの懇話会は続けてほしいと思います。

それと、市民の方でも市民懇話会を知らない人もいるので、まだまだこれから広報活動も頑張っていっていただきたいと思います。

それでは皆様、ありがとうございました。

(第18期会員へ市長から感謝状を贈呈)

(市長あいさつ)

ただいま感謝状を贈呈させていただきました。熱心にご活動いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。また、岩本会長から、ご自分の体験を通してお褒めをいただき、感謝を申し上げます。

1年目は、コロナ禍で活動が制限されましたが、2年目は全6回開催することができました。また、今年1年間の運営にご尽力いただきました第18期会員で会長の岩本様、副会長の土持様には、心から御礼を申し上げます。

第18期第19期の懇話会は、年間スローガンに「さあ、次のステージへ～みんなが主役のまちづくり～」を掲げられました。このスローガンのもと、本市の貴重な財産でもある文化財を生かしたまちづくり、さらに魅力ある自治会を目指す自治会活動の活性化、地域との関わりが大きなコミュニティ・スクール、市の都市づくりについて考える地方創生、そして今回のDXについて学び、情報化社会に備えるなどのテーマで行っていただきました。市民目線でのさまざまなご意見により、多くの気づきをいただきました。

本市では昨年の市制50周年を機に、新しい都市づくりを「春日新50年プラン」と銘打って進めています。ハード面の計画と合わせて、地域共生社会に向けた取り組みなど、目の前の課題に向き合い、将来を展望しながら、市民の皆様とともに協働のまちづくりを進めてまいります。皆様のさまざまなご意見は、行政施策を考える上で参考になることばかりです。

本日で第18期の皆様の活動は満了となりましたが、これからも市政に対するご意見や叱咤激励をいただきましたら幸いです。

結びに皆様が、この懇話会の会員であったことを誇りに思えるよう、これからもこの懇話会の輪を広げ、さらに発展して参りたいと思いますので、引き続きのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。2年ないし4年間の活動、本当にありがとうございました。

8 記念撮影

撮影。

9 閉会

事務連絡の後、閉会。

5. かすが市民懇話会 18期・19期会員名簿

第18期会員名簿（市民公募会員）

（任期：令和3年7月1日～令和5年6月30日）

名前	備考
わたなべ ぜんじ 渡邊 善治	
こが ひさあき 古賀 久章	
しょうだ みちひこ 正田 実知彦	
しらいし よしゆき 白石 吉行	
うえだ かずき 植田 和樹	
おおた たかし 太田 隆	
たけ よしひろ 岳 義弘	
いわもと あきら 岩本 晃	令和4年度会長
つちもち しずよ 土持 静代	令和4年度副会長

第19期会員名簿（団体推薦会員）

（任期：令和4年7月1日～令和6年6月30日）

名前	備考
みうら じゅんじ 三浦 淳二	筑紫農業協同組合
すみ よしか 澄 理嘉	春日市文化協会
みたに くみこ 三谷 久美子	春日まちづくり支援センター ・ぶどうの庭
いでい しょうぞう 出井 省三	春日市身体障害者福祉協会
おおいし こういち 大石 浩一	春日市商工会
たしろ ふみこ 田代 文子	春日市社会福祉協議会
すぎき ゆかり 洲崎 ゆかり	春日市子ども会育成会連絡協議会 令和4年度副会長
たなか のぶゆき 田中 伸幸	春日市スポーツ協会
はた としはる 畑 敏治	春日市小・中学校 PTA 連絡協議会
ふくだ ただぞう 福田 忠三	春日市シニアクラブ連合会

第19期会員名簿（市民公募会員）

（任期：令和4年7月1日～令和6年6月30日）

名前	備考
よしだ たつき 吉田 龍樹	
むらもと こうじ 村元 浩二	
むらかみ まさこ 村上 聖子	
やまもと さちこ 山本 幸子	
さかい かずとみ 坂井 一富	令和4年度副会長
まつお かよこ 松尾 佳代子	
ふくい すみこ 福井 澄子	

6. かすが市民懇話会要綱

(平成 16 年 5 月 6 日告示第 74 号)

改正 平成 20 年 3 月 31 日告示第 32 号

平成 27 年 3 月 26 日告示第 56 号

平成 28 年 3 月 31 日告示第 77 号

(設置)

第 1 条 行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(活動)

第 2 条 懇話会は、次に掲げる活動を行うものとする。

- (1) 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- (2) 市政の運営に関する調査及び研究
- (3) その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

2 市長は、前項の活動によって提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努めるものとする。

(会員)

第 3 条 懇話会の会員(以下「会員」という。)は、40 人以内とする。

2 会員は、市内に居住し、通勤し、又は通学する 18 歳以上の者であって、市政に関心と熱意のあるもののうちから、次に掲げる区分により市長が依頼する。

- (1) 市内の公共的団体等が推薦する者
- (2) 公募による者

3 会員の依頼期間は、2 年間とする。ただし、2 年間に限り依頼期間を延長することができる。

4 会員は、特別職職員としての身分を有しないものとする。

(会長及び副会長)

第 4 条 懇話会に会長及び副会長を置き、会員の互選により定める。

2 会長は、懇話会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(部会)

第5条 懇話会には、必要に応じて部会を設けることができる。

(庶務)

第6条 懇話会の庶務は、経営企画部秘書広報課において行う。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、懇話会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(平成16年度における会員数の特例)

2 平成16年度における会員数については、第3条第1項及び第2項の規定にかかわらず、同条第1項中「40人」とあるのは「20人」とし、同条第2項各号中「20人」とあるのは「10人」とする。

附 則(平成20年3月31日告示第32号)

この告示は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月26日告示第56号)

この告示は、公布の日から施行する。

附 則(平成28年3月31日告示第77号)

この告示は、平成28年4月1日から施行する。

